

第6回 湘南港ヨットハウス（管理事務所）新築に関する施設利用者連絡調整会議 議事録概要

日時：平成24年2月4日（土）10：00～11：00

場所：かながわ女性センター1階集会室

（事務局）

前回8月6日にヨットハウスの建て替えについて、話をさせていただいた後に、県の津波浸水予測の結果が順次でできた状況に合わせて会議を開かせてもらうという話をさせてもらったと思います。

だいぶ細かい浸水予測が出てきましたので、その状況を加味しながら、今一步進んだ状況を皆さんにお知らせし、スケジュール的な事も併せてしていきたいのでよろしくお願い致します。

（事務局）

お手元にお配りした資料に基づき事務局の方から説明させていただきます。

資料1-1タイトルとして、江の島及び湘南港における津波避難計画ということで、避難のイメージの絵柄です。①として大きく円でくくっているものが江の島、②湘南港という円の中に新ヨットハウスという円がありまして、その中に屋上避難スペースというものがあります。同じく湘南港の中に、その他施設があります。点線の矢印が避難の誘導の方向を示したものです。

下に書いてありますが、江の島全体の津波避難計画は藤沢市が地域防災計画の中で今後策定していきます。

その中で、②湘南港の津波避難計画ですが、1）として、全体として藤沢市が策定する計画に基づいて江の島高台へ避難する。湘南港の中においても、基本的には藤沢市が防災計画で策定する避難計画に基づいて高台へ逃げる。

2）海上で逃げ遅れた人は新ヨットハウス屋上へ避難する。この部分を今年度中に調整し、規模を決定したいと考えています。

今申し上げたところで、収容しきれない又は湘南港内で逃げ遅れた人は、その他施設へ避難する、そういうイメージで。これにつきましてはこのヨットハウスの修正設計が確定次第、引き続き24年度以降調整していきたいという説明資料です。

江の島・湘南港、全体における避難計画の中で、新ヨットハウスが受け持つ避難というものを決定していきたいと考えております。

次のページは行政資料で（資料1-2）と右肩に書いてありますが、藤沢市が策定しております、地域防災計画から抜粋したものです。江の島における避難計画という項目があります。（1）江の島における関連情報の伝達方法、関連機関等の連携体制、避難計

画等を定め、地域住民及び観光客等来島者の迅速かつ安全な避難を図る。こういうものを藤沢市が策定しています。(2) 湘南港における関連情報の伝達方法、関連機関等の連携体制、避難計画を定め、船舶交通の安全を確保するとともに、緊急物資受入港としての機能を確保する。こういう行政資料があります。

次のページは資料(1-3)で津波浸水予測図(案)です。左上に注意書きがありますが、想定地震を、慶長型地震とした場合に、江の島を含め藤沢市一帯がこのような浸水域になるというものを示したものです。以上が議事の1) 江の島及び湘南港における津波避難計画の事務局からの説明資料です。

2) 新ヨットハウスの設計変更内容についてということで、資料2を開いてください。これは、皆さんの意見を念頭におきながら県の方で考えた案という事で、2の津波避難対策の考え方、出艇中の利用者に対して、高台まで避難する時間が足りなくなる事を想定し、新港湾管理事務所の屋上へ避難できる構造とする。江の島内の高台に避難可能な方に対しては、高台への避難を促す。3の津波避難施設の計画案ですが、ここの津波の浸水の深さが約6mという高さ慶長型地震で、地面の所から最大6mという事なので、屋根の高さと同じ10m、面積約100㎡というものを計画したいと思っています。

この後意見交換させていただきますが、前回、広ければ広い方が良いという意見を伺っておりますので、まずは新ヨットハウスの避難スペースはどのくらいかという事を確定させてもらってそれ以降、逃げ遅れた方・収容しきれなかった方については順次検討していくという事で、まずはこのヨットハウスの規模を決めたい、という事でございます。

スケジュールですが、23年度実施設計、12月に引き続き検討していただくという事で、契約をしたので、急ピッチで検討を進めている最中です。その後24、25で建築工事をしまして、26年度で開所を予定しています。

建築概要ですが、構造、鉄筋コンクリート、鉄骨造、地上2階建、1階部分がお案内の通り、2階部分も今まで協議させていただいた通り、屋上に避難施設を設けるという事です。

次のページを開いてください。現在のだいたいの概要はこんな感じです。一番上に計画平面図があります。現事務所の左側に新事務所という形で、四角く上にスペースが描いてあります。これが屋上避難スペースになりまして、下の計画断面図の右側にやぐらのようなものが上にありますが、これが避難スペースのイメージです。想定浸水深6mという結果が今、出ています。2階の高さが4m、浸水深が6mなので、施設の高さが10mで足りるという事になります。

参考で下に慶長型の浸水予測図が描いてありますが、現在県で公開している図面が5m以上のところが、5mから何mというのが無い状態なのですが、今後1mピッチに公表していく予定になっています。描いてありませんが、6mの浸水深だと確認して、このような形で今後検討を更に細かくしていき、できるだけ早く建築工事に移っていき

いと考えています。資料については以上です。

次のページ資料3をお開きください。これは津波の浸水の深さがどのくらいになるかを報告させていただきましたが、そもそも津波の波の力に対してヨットハウス自体の構造がもつのかもたないのか、という事の検討をしていく中で、資料3にある通り国土交通省の住宅局長の技術的助言という形で、津波に対する構造耐力上安全な建築物の設計の助言をしますという通達が出ています。事務局として、この通達に基づいて、本来想定される津波の波力に対する構造計算をやりますという報告でして、結果がまだでないのですが、構造計算をこれからきちんとやりますという報告をさせていただくために今回資料として添付させていただきました。以上で資料の説明を終わります。

(事務局)

これから意見交換をさせていただきます。

(利用者)

報道などは、津波の到達時間は30分と言っている。問題は、海の上ではセイラーは地震があっても地震がわからないんです。横揺れは水は伝達しない。だから海でセーリングしている人はあれだけの大地震でもわからなくて、携帯が使えず無線機しか通信手段がない。無線で言っても「本当か」といった感じで、なかなか信じないという問題があり、ぎりぎりのところでやっと避難することが出来た。大学生は強風波浪があったので、港の中で練習していて、地震は感じなかったけど建物が揺れる様やガラスが割れるのが見えたので、そのまま逃げたから良かった。彼らは1年前から地震の時どういう風にするかシミュレーションをしていた。だから、船はそのまま置いて、とにかく逃げろっていう事で逃げたから全員助かった。そういう事を聞くと江の島の場合どうやって伝えるかということが問題で、30分で何人避難出来るのか、というのが問題だと思って、最低30分ですね。それから、無線で船が戻って来る、水深40m以上ならどっちに逃げた方がいいか、その時の判断が大事になるが、そこを踏まえた話し合いが大切と思っています。

(事務局)

海上でまず津波が発生してるって事をどう伝えるかが重要な話です。今話を聞くと、大きなうねりだから気づかないという…

(利用者)

津波の前に地震に気付かないんです。地震が横波で、海の上では横波が伝搬しないので細かい縦波しかこないんです。だけど自分としては陸上から無線で早く帰れって言われても練習開始して10分しか経っていないのに何言っているんだという感覚で、後で平謝りしてましたけど、判断が重要なところである。管理されてないところは、誰かが行って言わない限りわからない。

(事務局)

その辺についても、県として、4港の指定管理者と県の土木事務所で、どうやって周知していったらいいのか、湘南港の指定管理者もマニュアル作って周知してもらってる
ところなんです、オレンジと黒の縞の吹き流しを付けて走り回ろうかと、いろいろ考
えているところなので。

(利用者)

それをやって、慌てて戻っても30分くらいすぐに経ってしまう。

(利用者)

15分かかわからないんですが、今でも津波の場合は漁港、漁協、警察とか全部サイレ
ンを鳴らします。あのサイレンが鳴ったら地震だと思う・・・

(事務局)

海上の人、聞こえますかね。

(事務局)

実際3月11日の時も、各自治体でサイレン鳴らしたが、海上の人に伝わらなかった。
ウィンドサーファーの人も聞こえなくて、オレンジフラッグの話が動きになっている。

港に関してはレースの時、オレンジの旗が使われているという話があるので、港では
オレンジの旗は使えないというので、先ほど言ったオレンジと黒の吹き流しでやろうと
いう事で、4港湾で申し合わせて今後取り組んでいこうかと考えています。あらかじめ
皆さんに周知をよくして、よく注目していただければ、オレンジの旗が揚がったらすぐ
戻る。当然音声も併せて流すのですが、それでも聞こえなかった場合という事です。

(利用者)

吹き流しは見ません。

(事務局)

見ないというか、見るようにしていくしかないんじゃないでしょうか。

(利用者)

海の上3キロくらいの所にいるんだから、3キロ見通してみても、吹き流しは見えない。

(利用者)

花火をあげるしかないよ。火みたいの

(事務局)

発光弾みたいなの？

(利用者)

そういうのあげてもらって、そしてフラッグ揚げるとか、ならいいけど。

(事務局)

注目させる為で、ということです。

(利用者)

ウィンドサーフィンだったら見えるけど、だいたい3キロか5キロ沖だから見えない。

(事務局)

あとは沖に行くか戻るかというのはそれぞれの場所で…。それを一律で決めるのは難しいと思います。それは各自で判断してこういう場合はこうだという。ただ、情報を伝える事だけはしなければいけないと考えています。

(利用者)

避難スペースで100㎡はいかがなものかと思う。ぎりぎりで帰って来る人がいて、助からない人もいると思う。ぎりぎりに帰ってきて100㎡、200人くらい、多い時は300人～400人くらい、半分でも200人…

(事務局)

100㎡だと200人というのが確かにあるんですが、㎡二人、もっと入ろうと思えば入れるわけです。100㎡だとだいたい500名以上入れると思うので、構造的には壊れない構造をしているので、命が助かる為であれば一瞬ぎゅうぎゅうでも我慢してもらえないと思うんですが。

(事務局)

ただ、先ほど言ったように、ヨットハウスの屋上だけで全部という事は考えてないんです。面で、ポイントポイントで分散して逃げてもらわないといけないかなと思っている。船具庫の屋上を利用するとか、監視塔のスペースを利用するとか

(利用者)

分散して避難するという考えの中で、あくまでヨットハウスが受け持つ避難規模を固めていく、ということか。

(事務局)

そうです。まずはヨットハウスを早く建て替えないといけないので、ここで規模を決めておいて、それを条件としながら、他に分散させて、面でいきたいなと思っている。

(利用者)

ここで障害者のヨット活動をしている者だが、是非検討しておいていただきたい事として、車いすでのヨット利用者は、いずれにしる屋上に逃げるしかない。屋上までスロープで行けるように、同時に屋上で縛り付けておくリングを用意してもらいたい。この人達は、屋上に結わえ付けておくしかないと思う。波が来ても、息ができなくても、とにかく屋上に縛り付けられてるという形で、確保したいと思う。できましたらスロープと固定用のリングを用意してもらいたい。

(事務局)

冒頭でもお話させていただいたのですが、藤沢市の津波避難計画ができてない中で先行的にやってるんで、高台の避難、ヨットハウスはわかる、他の所も面的に広めていくっていうのわかる。ただ、高台に逃げるって言われても、高台にどうやってどの場所に逃げるんだろう、それがわからないじゃないかっていうところが確かにあるんです。私達もそう思ってます。ですので、藤沢市に繰り返し何回も足を運びながら、ヨットハウス、我々湘南港の利用者・管理者で、こういう事を考えているんだと、それを藤沢市に

どんどん提供しながらひとつの与条件として藤沢市の避難計画を早急に立ててください、避難ルートを示してくださいというのが、今の状況でなかなか難しいのであれば、一緒に考えましょうという事をやっていますので、そういうやりとりをしているので、カッコ1で。避難の全体のイメージはどうなんだというところをまずご説明させていただいて我々は議題であるヨットハウスを中心に、という事で話を進めたい。

(利用者)

避難スペースはヨットハウスの上にありますよね。屋根の上は乗れないんですか。

(事務局)

ヨットハウスの波形の屋根そのものですか。

(事務局)

これで決定したわけじゃないですけど、具体的なイメージがあった方がいいかと思っ
て模型を回覧します。

(利用者)

私が聞きたいのは、この上に人がワーツと乗って…

(事務局)

滑って危ない。基本的には避難スペースだけが対象である。

(利用者)

と言う事は屋根の上に逃げた人は落ちちゃうって事ですか。パニック状態の時に、こ
こが避難所で、ここから出たら死んでしまいますよ、というような施設になるのではな
いか。だってどうなるかわからないだし、屋根の方が少し高いじゃないですか、そし
たらもっと高い所へ行った方が助かるぞって誰かが先導したらそこに行って並んでしま
う可能性がある。ここだけが避難所だよって言っても、人はいろいろ動くから、屋根の
上で踏ん張れるくらいのを設計的に考えてもらった方がいい。

(事務局)

乗れるスペースを確保すると、それだったら屋根でいいじゃないかという話になる。

(利用者)

屋根に逃げろって言うておいて屋根には乗れないのか。だから考え方は、どういう考
え方が正しいのかということ。今だったら、そうだねって言うけど、実際に波がバーツ
ときた時にそんな事考える人いるのかな。パニックになったら人はより高い屋根にい
くのではないか。

(利用者)

訓練を重ねていくしかないと思われるが。

(事務局)

手摺りをもっと上げるといった事も考える。

(利用者)

屋根の周りに手摺りを付けるとか何か対処して、最低限端から落ちない。これだけの

大きなスペース、避難所より高い位置があるのに関わらず、人が行けないスペースがあるってというような、そういう構造物あっていいのかっていう事。分散して他の所に作ってくれるのはわかりますけど。

(事務局)

これは条件として、決めましょうという事でやらないとダメかなと思っているんです。

(利用者)

ただこれは、津波の被害がある前の絵柄で、皆で良いね、と言って決めたものである。津波があつてからは、海側に窓を付けるなどか、電気設備は2階に設置するとか、地下に行く階段は地上からではなく2階から降りられる構造にするとか言っている。少しでも人が助かるような工夫を検討して欲しい。

(事務局)

なかなかこの場で有効な答えというのはない。

(利用者)

実際に屋根には避難スペースより高くなる位置はあるのか。

(事務局)

あまり変わらない位置である。

(利用者)

そうするとここに乗った人は、津波がきたら、あっちの方が高いからあっちの方が助かると言ったらみんな行ってしまう。誰が言うかわからないけど。

(事務局)

図面上では10という数字がかかっていますが、模型のイメージでは11mを設定して、屋根の最高高さと同じにしています。後は面の大きさの話ですよ。

(利用者)

屋根より避難所の方が絶対高くして、あっちにいるよりこっちの方が絶対安心だと…

(事務局)

何かを決めるのには、想定が必要で、今回は想定6の数字を前提にして6m以上をクリアしています。

(利用者)

見た感じで屋根の最高高さよりも、避難所の方が高くないと。

(事務局)

同じ高さ以上であれば、そういう危険性はなくなりますね。

(利用者)

無くなるかな…

(事務局)

高さについては、11で想定していますが、もう少し上げた方がいいかなという意見があれば、それでも構わない。安心感の話ね。要するに高い屋根があるのにそれより低

いと、となると。

(利用者)

安心感というか、そういう可能性があるという、パニックの時に人はどうするか…

(事務局)

話をまとめなければいけないから、今想定としては、ヨットハウスの上に100㎡、隣の船具庫にもう少し規模の大きいものを、その他にも皆さんの希望・意見の中で、分散してやろうという提案をさせていただいている。それをベースにして、この大きさはこれで、あと50cm上げましょうかと言うならわかるけど、屋根の上を全部逃げれるようにしようというのは、という議論になってしまう。

(利用者)

今の絵だとこういう風になるんじゃないかと…。今の絵だと、避難場所に行くより屋根の上の方が高いんじゃないかと思う人もいるんじゃないですか。

(事務局)

今のご意見を取り入れて、もう少し見直して、パニックがおきた時にも、屋根の上の方に行かないような心理状態、そういう事ができるような事を工夫します。そういう意味でよろしいですか。

(利用者)

そういうような対応はしておかないとまずいかなと思います。

(事務局)

わかりました。

(利用者)

ここの建物（かながわ女性センター）も…

(事務局)

ここは今現在、避難ビルに指定されている。

(事務局)

浸水予測の結果だとここの3階だと基本的にここまで達しないという予測結果がでていますので、ここの3階に上がれば安全です。

(利用者)

車いすの人達、30分あるなら、ここまで連れてきたいな。それには、外側でいいからここにスロープを設置して欲しい。

(事務局)

女性センターの方に伝えます。

(利用者)

今話すのは、新ヨットハウスの話であって、これをするにあたり、前回の話し合いの時に、例えばハーバーのバース内に高台をもう一個設けて、そこから江の島の頂上につながるような橋なりスロープなりを付けるというような計画も含めて、市の方とも話を

進めていただいているんですか。

(事務局)

スロープを具体的に付けてという話は、そういう案は出してないです。

(利用者)

前回の利用者会議に、こういうのをやっていただけませんかという話がでたと思うんですが、それをふまえて今回、避難路も含めて、湘南港として、江の島としてか、わからないですが、今回の新ハウスはこういう形でやりたいという事であれば私はいいと思うのですが、これやったら後は知らないよと言うのであればもうちょっとあの…

(事務局)

そんな事は言っていません。

(利用者)

去年そういう話がでた中で、市や県に話がいつているのかいつてないのか、皆さんと集まって話し合いをした結果が。

(事務局)

それは、ここで我々話し合っているのは常に伝えていきます。藤沢市災害対策課ほか関係部局には全部話は伝えていし、打ち合わせ会もその都度私の方で開いています。

(利用者)

それをちょっと確認したかっただけで、新ハウスという点では問題ないと思うんです。今後のつながりとして、そういうのが全然話しが進んでない、もうこれで終わりだという話であれば、私も考えてもらわないといけなかなと思うんですけど。

(事務局)

今ご説明させていただいたお話と、ご意見をいただいた部分について、前回もホームページに載せたのですが、また集約をして、ホームページに後日載せさせていただくと同時に、今日いただいた意見を基に、また一歩設計を進めて、詳しい図面をこの次は開示します。次回の日時は取りまとめた段階で早めにお知らせします。

(利用者)

ホームページはどこに載ってるんですか。県庁のホームページですか。

(事務局)

藤沢土木事務所のホームページです。

(利用者)

藤沢土木事務所で検索すればでてくるんですか。ハーバーにくる皆さんがいつでも見られる状態でいたいので、土木事務所でさがしてすぐわかりますね。

(なぎさパーク)

これは、皆さんの参加された1回～5回までの、ホームページを全部ダウンロードし

たものです。説明資料はホームページで閲覧できるようになっていて、先ほどの関係も、今確認したのですが、山へ登る施設が…というのは見た限り議事録から外れているんですが、そういうのもチェックされて、もし漏れているようなら加筆してもらいなりなんなり。図面も一緒にありますので、誰でも簡単に藤沢土木事務所から検索で入れればできますので。

(利用者)

載ってない・・・今日の話も載らない可能性がある話があるって事だね。

(事務局)

そんな事はないんですが。

(利用者)

私もダウンロードして見ているわけじゃないんで、無責任かもしれないんですが、皆さん集まって話し合った議事録なんで、当然載ってるだろうという勝手な判断だったんですが、そういう事であれば、ちゃんと議事録を最低限、我々出たメンバーには開示していただいて…

(事務局)

そうですね。その後に載せるという事で…

(利用者)

そうですね。載ってないという事であれば、何の為に前回集まったんだという事ですから。

(事務局)

わかりました。事前にまとめた物を、ホームページに載せる前に確認してもらいます。

(利用者)

今はガラス張りになってますね。ガラスに構造を期待するのか。それともどこかに構造壁を造って、何か対策なりなんなりを考えているのか。

(事務局)

構造自体で耐えようというのではなくて、波力を逃がして部材で保たすという考え。

(利用者)

そうすると下は全部浸水するという事か。

(事務局)

構造壁で慶長地震の津波に耐えようっていうのも相当マッシブで、それがはたして本当にそれでいいのかっていうのがまた疑念がわくんですね。だから構造壁でもたせるのではなくて、それは波力を逃がし切って、鉄骨で保たす。

(利用者)

東北でも構造壁は残ってるんですよ。

(事務局)

というか、今の考え方としては、弱いガラスを一部用意しといて、そこから浸水を逆

に導いて、厚いガラスが抵抗するのをやめようという想定をしています。女川などみても、固いコンクリートで造った事によって逆に浮力がわいて、建物が倒れたり、いろいろな例があるので、今回の場合は平屋に近い建て方なので逆にずれないように基礎をしっかりとるか、ガイドラインに沿って建築そのものが崩壊しないようにという設計はしています。

(利用者)

という事は、1階は屋根まで筋交いとか無いということなのか。

(事務局)

屋根というか天井、ほとんど天井付いてないんだけど、スラブに近い今と同じような構造ですから。

(利用者)

骨組みと避難計画・・・

(事務局)

地震の規模によりますね。慶長型の6mになるけれども、それ以下の地震であれば1階が浸水程度、2階が充分避難所として機能する想定です。

(利用者)

今回の東北の規模の津波では全て無くなって、まわりの骨だけ残ってて…

(事務局)

たぶんイメージされているのは、船の加工所とか、いわゆる仮設に近い工場をイメージで言われてると思うんですが、今回もう少しレベルの高い強度をもった公共建築なので、しっかりと造ります。ガイドラインをきちんとチェックして、安心していただいて、我々も東北3県を全部回っていろいろな例を検証しながら方向性をだしているのも、同じようなイメージをもって見て回りましたので、その辺国交省のガイドラインに沿った形でセーフティな設計とする。

(利用者)

ポールが短い。この限界で一番短いんです。他のところはだいたい3倍くらい長さ、それは想定している台風とか津波などで難しい事だと思うのですが、一番恐れているのはあれが抜けて、東北もそうだったんですが、波と一緒に船が周辺物をなぎ倒す。あれはできるだけ避けたいという感じがあるので、大潮の時だと1mも無い、何十cmくらい。これはとても難しいと思いますが、対応してもらいたい。

(事務局)

湘南港自体の津波対策をやっていく中で、各種の検討をしなくてはいけないなど、ヨットハウスの他にも再整備に関わる中の津波対策も、24年度予算を要求していますけど、検討するにしても、シミュレーションするにしても、とにかく優先順位を付けて、予算を確保しておきたい。

(利用者)

ひとつ話をしている中で、ヨットハウスの建て替えという事で我々利用者としては、どうやって安全を確保するかというような…要望なのですが、藤沢市の防災課の方々にもオブザーバーでもいいから打ち合わせに出ていただけると、少しずつ整理がつくかなという思いがありまして、できれば出席してもらいたい。

もうひとつ、私どもの方でも、避難路が昨年発表されてから、実際に江の島の高台の方に子供達と行ったんですが、初めてやったところ、いろいろわからないところが多く、助かりましたし、また、こういう所にできた場所にどうやって連れてくるか。戻らないで海上にいた方がいいのか議論してはいるのですが、全体的には、ハウスの問題と安全確保という問題はもう少し幅の広い形になるんで、一部父兄の方からは、例えば防波堤にいる釣りの人達、最近なぎさも開かれて、外にいる方もたぶん入ってくるだろうし、そういうところでどうやって対応していくのか。話が広がってしまうが。これもどうやって整備しながらハウスの建て替えを進めていくのか話をまとめていかなければならないと思っている。

(利用者)

ポールですけど、あれも5、6年前、議事録に入っているかなんですが、この地震の前の会議で何度も話題には投げられているんです。船の二次災害が怖いので。

(利用者)

地震の前からの課題です。

(利用者)

初めてこうなって出てきた話だから、ここはひとつ議事録加えてください。

(事務局)

今いただいたご意見と我々が案としてお示しできる図面ができ次第、連絡申し上げ、議事録もホームページに載せる前に皆さんに見ていただいて、事務作業を進めながら進めさせていただきたいと思っております。

これで、第6回の会議を終了させていただきたいと思います。